

台風・豪雨(水害)被災資料に対するレスキュー活動の現状

近年、台風や豪雨による自然災害が多発している。特に平成27(2015)年関東・東北豪雨、平成28(2016)年台風10号、令和元(2019)年東日本台風(台風15号・19号)による水害で、多くの地域が被災した。アーカイブズ・歴史資料の観点からみても、被害の大小はあるが、多くの歴史資料収蔵機関が何らかの形で被災し、多くの資料が被災することとなり、民間所蔵資料についても多くの資料が被災した。また、公文書が被災した自治体も確認された。このような被災した資料に対して、各歴史資料収蔵機関、各歴史資料ネットワーク、自治体は、独自に、または国立歴史民俗博物館・国立公文書館、外部支援団体などの協力を得て、被災資料のレスキュー活動にあたっている。

しかし、被災資料のレスキュー活動の具体的な内容に関しては、近年は比較的歴史・民俗学の学会、世界博物館協会、歴史資料ネットワークの全国資料ネット研究交流集会などで報告などがなされているが、それ以外は各歴史資料収蔵機関、自治体、外部支援団体が所属する県内に各広報誌などで周知されている程度である。比較的周知ができていても、時間や紙幅の関係から被災資料レスキューに至るまでの経緯などの内実やより具体的な被災資料レスキュー作業の内容までは伝えきれていないように思われる。また、資料の性質から具体的な内実が公表しづらい場合(公文書、民間所在資料など)や、被災機関が広報誌を発行していない場合(この場合、ホームページで公開している館も存在するが、情報の需要者が積極的にホームページにアクセスする必要性が出てくる)など、周知ができない条件下にある各歴史資料収蔵機関、各歴史資料ネットワーク、自治体も存在する。

そこで、本定例研究会では、まず、平成27(2015)年関東・東北豪雨で被災した常総市の公文書救助・普及活動への支援、そこから拡大した常総市と全史料協の協働による茨城県外への支援や常総市と茨城県立歴史館の協働による茨城県内への支援に携わった全史料協調査・研究委員会委員の林貴史氏に被災資料レスキューに至るまでの経緯、そこから他地域に拡大した支援の内実についてお話をいただき、次に令和元(2019)年東日本台風(台風15号・19号)で被災し、現在も収蔵資料レスキュー活動を継続しておこなっている川崎市市民ミュージアムから谷拓馬氏に被災資料レスキュー活動に至るまでの経緯や具体的なレスキュー内容についてお話をいただき、さらに実際の被災資料レスキュー作業現場を案内していただく。最後に両氏のお話から相互の被災資料レスキューに至る経緯や方法、レスキューをとりまく環境、公文書と博物資料などに代表される資料の性質などの差異や、そこから生じる課題について参加者ととも議論できればと考えている。

- 1 日 時 令和3年12月23日(木)
13時30分から16時00分まで(受付開始13時00分)
- 2 会 場 川崎市市民ミュージアム 地下ローディング
〒211-0052 神奈川県川崎市中原区等々力1-2(等々力緑地内)
- 3 定 員 40名(先着順)
- 4 日 程 13時00分 受付開始
13時30分 開会、趣旨説明、報告者紹介
13時45分 講演1 「被災公文書救助・普及活動への支援について」
林 貴 史 氏(全史料協調査・研究委員会委員)
14時35分 講演2 「川崎市市民ミュージアムのレスキュー状況(仮)」
谷 拓 馬 氏(川崎市市民ミュージアム)
15時10分 被災資料レスキュー作業場見学
16時00分 質疑応答
17時00分 閉会
- 5 申込み 別紙「参加申込書」に必要事項を記入し、令和3年12月20日(月)までに下記事務局あて電子メールまたはFAXで御申し込みください。

6 その他

- ・全史料協関東部会会員ではない方もご参加いただけます。非会員の方の場合、当日受付にて資料代 500 円を徴収します。
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のため以下の点に御協力ください。
 - ①当日体温が 37.5℃以上の方や、咳・のどの痛み、頭痛等の症状がある方は、御遠慮いただくようお願いします。事務局まで御一報ください。
 - ②受付時の検温・消毒、研究会中のマスクの着用等に御協力ください。
 - ③今後の感染状況により、開催地の対応に沿って開催方法が変更になる場合もありますので、あらかじめ御了承ください。

全史料協関東部会事務局（埼玉県立文書館内）
埼玉県さいたま市浦和区高砂 4-3-18
TEL：048-865-0112（代表）
FAX：048-839-0539
E-mail：jimukyoku@jsai-kanto.jp